

電気ストーブ火災を防ごう

◆ 電気ストーブ火災の実態

平成28年の東京消防庁管内（治外法権火災及び東京消防庁管轄外からの延焼火災を除く。）の火災件数は3,980件です。このうち電気製品等から出火した電気火災は1,052件（26.4%）で、そのうち最も多いのは、電気ストーブ火災（カーボンヒータ、ハロゲンヒータ及び温風機を含む。）の85件（8.1%）です。電気ストーブ火災のうち亡くなった方6人、けがをされた方40人と、人命にかかわる被害が大きい特徴があります。

これからの季節、電気ストーブを使用する機会が増えます。電気ストーブは見た目は直火（炎）がなく安全そうに思えますが、暖房器具であり、石油ストーブのように高熱を発生することになりはなりません。使用に際しては、燃えやすいものは近くに置かないなど、注意が必要です。

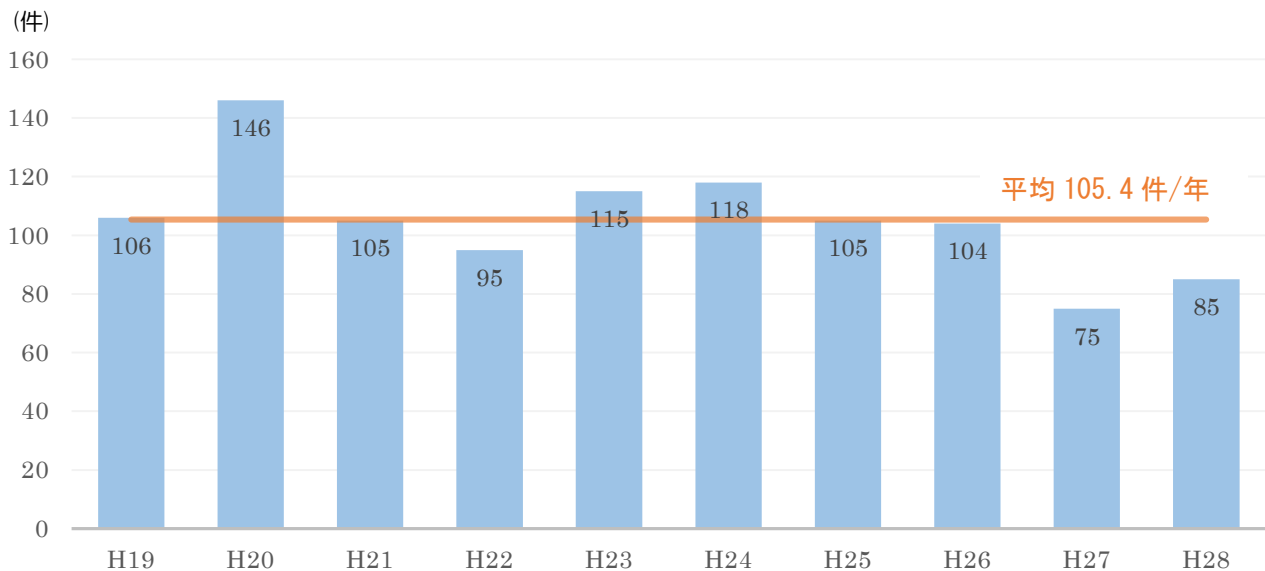


図1 電気ストーブの火災件数の推移

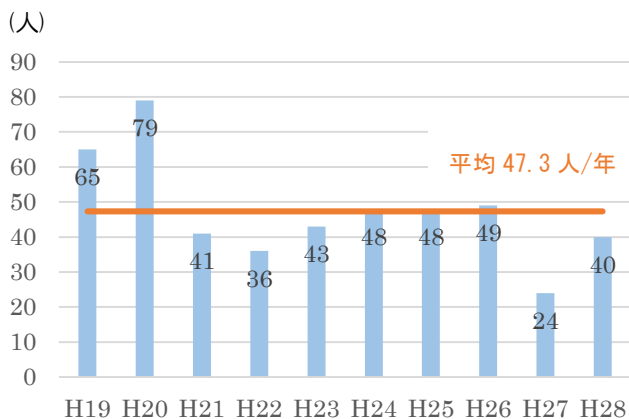


図1 電気ストーブ火災による負傷者の推移

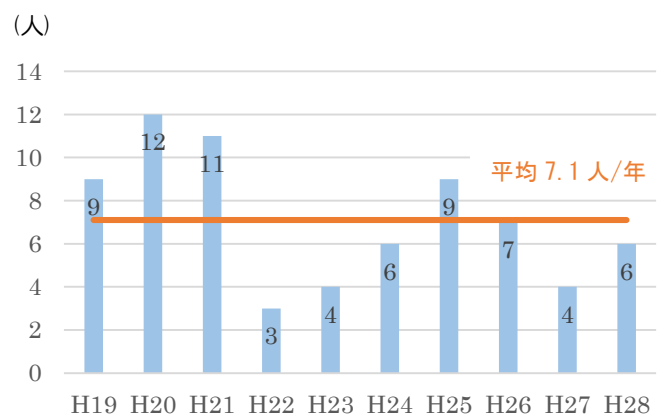


図2 電気ストーブ火災による死者の推移

■平成29年に発生した電気ストーブの火災事例

- 事例1 就寝時に掛け布団が電気ストーブに接触し、出火したもの。
(平成29年2月 80代男性死亡)
- 事例2 脱衣所内の突っ張り棒にかけていた繊維製品が使用中の電気ストーブ上に落下し、出火したもの。
(平成29年2月 80代女性死亡)
- 事例3 居室内の電気ストーブに電源を入れたところ、付近にあった寝具や衣類がストーブの金属製ガードに接触したことに気づかず、時間経過とともに過熱され出火したもの。一酸化炭素中毒で死亡した。
(平成29年3月 80代女性死亡、50代女性中等症、60代男性中等症)
- 事例4 テーブルに置いていた新聞紙が落下し、電気ストーブのヒータ部に接触し、出火したもの。
(平成29年3月 60代女性重傷、60代男性中等症)
- 事例5 居室内で使用していた電気ストーブに布団が接触し、出火したもの。居住者は燃えていることに気づき、電気ストーブを玄関に搬送した際に意識を喪失した。
(平成29年1月 60代男性死亡)

■電気ストーブ火災の特徴

- ・死者の70%を75歳以上の後期高齢者が占める。
- ・電気ストーブを点けたまま就寝し、布団等に接触する火災が多い。
- ・電気ストーブ上にあった衣類等が落下し、接触する火災が多い。
- ・ぼやでも着衣着火、一酸化炭素中毒により亡くなる方が多い。



写真1 電気ストーブに布団が接触し出火した様子



写真2 電気ストーブにパジャマが接触し出火した様子

■ 電気ストーブ火災を防ぐポイント

- ✓ 外出・寝る前には必ず電源を切る。
- ✓ 燃えやすい物は近くには置かない。
- ✓ ストーブの上に洗濯物を干さない。
- ✓ 使わないときは電源プラグをコンセントから抜く。
- ✓ 電源プラグやコードが傷んでいたら使用しない。
- ✓ 使用前に取扱説明書をよく読む。

